



「甲佐町防災士あゆの会」会長。防災士同士の交流や情報共有の場づくりに取り組むほか、町や地域の防災組織との連携を深めながら、防災力の向上を目指す。

溜渕 清裕さん
Kiyohiro Tamaribuchi

【津志田区】

自らが命を守るための行動を 災害の教訓を次世代へつなぐ

「自助」「共助」「協働」を基本理念とし、防災への十分な意識と知識・技能を有することを日本防災士機構が認証する「防災士」。町内の防災士で組織される「あゆの会」

会長が溜渕清裕さん(78)だ。溜渕さんが防災士の資格を取得したのは、区長になったことがきっかけ。地域を預かる立場として、住民の安全を守るため自主的に防災につい

て学び始めた。「災害発生時に地域の人たちを守るには知識が必要。まずは自分が学ばなければならぬ」と思い、平成26年に防災士の資格を取得した。

「あゆの会」は令和5年に発足し、現在の会員数は43名。防災士資格を持つ消防団OBや住民などで構成され、小学校での避難訓練への参加や防災

講話、水消火器を使った初期消火訓練、消防署職員を招いてのAEDや救命講習会などを実施し、日々、地域の防災力向上に努めている。

「防災士の資格は、意欲があれば取得できます。しかし、資格を取った後に情報交換や活動の場が少ないことが課題」と話す溜渕さん。そこで、防災士同士がつながり、知識や経験を共有できる場として「あゆの会」を立ち上げた。令和6年には、山都町防災士会との意見交換会を実施。さらに美里町との交流も予定していたが、それを押し流してしまっただが、町内にも大きな爪痕を残した令和7年8月豪雨だ。

「皆さんも当時の状況を覚えていてと思います。あの時、自分はどう行動したのか、避難するにはどのルートが安全だったのかを振り返ってほしい」と溜渕さん。「住んでいる地域はもちろんだが、周辺地域の気象情報にも目を向けることも重要」と話す。緑川の上流の緑川ダムは、大雨時には大量の放流が行われるこ

とがあり、その水が町へ到達するまで約40分ほど。「放流によって川の水位が急激に上がり、避難経路が断たれる可能性もある。だからこそ、『まだ大丈夫』ではなく、早めの避難を心掛けてほしい」と有事の際の心構えを訴える。「助けを待つのではなく、まず自分の命を守ることを最優先にしてほしい。逃げるべき時は逃げる。振り返らずに避難することが大切です」と「自分の身は自分で守る」という意識を訓練などを通して町民に持ってもらうことも「あゆの会」の重要な活動の1つだ。

隣近所での助け合いはもちろん大切だが、災害時には誰もが被災者になる可能性もある。「日頃から自分がどう逃げるかを考えておいてほしい。近所の地形や道路の特徴、水がたまりやすい場所を知り、避難経路も1つではなく複数考えておくことが重要です」と溜渕さんは、地域の防災力の向上と町民の命を守る要の防災士として、過去の教訓を町民に伝え、次世代へつなぐ活動を続けていく。